



である。













29馬場家住宅

【佐賀市柳町1-12】

佐賀駅より徒歩15分 催事時のみ内部開放

幕末から明治初期にかけて、馬場家の祖先に あたり鍋島藩の藩医を務めた漢方医の高宗弘 堂が居住し、この家で開業したと伝えられる。嘉 永7年(1854)『佐嘉城下町竃帳』には、岡部杢之 助組侍の古賀元恭が居住していたと記されてい る。18世紀末から19世紀初期の建築と推定さ れ、表の腕木門も同時期のものと考られる。表構 えは他の町家とさして変わらないが、むしろ武家 屋敷に近い間取りを示している。



30 佐賀市歴史民俗館

旧古賀銀行【佐賀市柳町2-9】

旧古賀銀行は両替商・古賀善平が明治18年に 設立した銀行で、明治39年に現在地東寄りに本 店が新築された。大正初期の大増築の際には、設 計に佐賀市の建築家 舟木右馬之助が関わり、佐 賀市における本格的洋風建築として貴重である。 また、数度にわたって用途が変わったため、建物 の中に改造の歴史を残している。石造りの帯をめ ぐらした煉瓦タイル張りという形式で建物の表面を 飾るなど、近代建築が地方へと浸透していく過程

を知る上でも貴重な歴史遺産である。

「関連施設]

復元には、同じ舟木右馬之助が設計した旧古賀 銀行神埼支店の建築構造を参照している。



31 佐賀市歴史民俗館 旧古賀家【佐賀市柳町3-15】

旧古賀銀行の初代頭取・古賀善平の住居で、 銀行本店の東隣にある。江戸期以来、古賀家は この地に屋敷を構えていたが、古賀銀行開業に 先立つ明治17年、この住宅を建てたと伝えられ る。周りに門と塀を巡らした白漆喰仕上げの近代 和風住宅で、西隣の銀行本店と一体となって残 される点に価値がある。黒漆喰仕上げの玄関や 西側の煉瓦塀は大正期に改築されたとみられ



32 佐賀市歴史民俗館 旧牛島家【佐賀市柳町4-9】

江戸期に町の姥役を務めた足軽高楊伊助が 問屋業を営んでいた建物で、佐賀市朝日町(旧 今宿町)にあった。建築年代は18世紀前期と考 えられ、その後、明治後期に今のような姿に整え られた。佐賀旧城下町域に残された町屋建築の 中では最古とみられる。多くの改造を経ていると はいえ、江戸中期から明治期の佐賀の町屋建 築の構成を知る資料としても貴重である。平成8 年に現在地に移築復元された。



33 佐賀市歴史民俗館

旧三省銀行【佐賀市柳町3-12】

旧三省銀行の店舗として明治15年に建築さ れ、その後、医院や住居として改造が加えられ利 用されてきた建物である。伝統的町家建築の空 間構成を銀行業務に対応させた草創期の銀行 らしい建築構造等に特色があり、スケールの大き な吹抜けなどのおおらかな空間構成をはじめ、 二階座敷を始めとする細部意匠、大胆な外見意 匠などの建築的特徴を備え、明治前期の時代の 息吹が感じられる銀行建築である。



34 佐賀市歴史民俗館 旧福田家【佐賀市松原4-3-15】

明治末期から大正・昭和期にかけて佐賀セメ ント、佐賀軌道会社の設立に尽力するなど佐賀 を代表する事業家として活躍した福田慶四郎の 居宅であった建物である。完成度の高い多様な 接客空間の存在が特徴的で、屋敷地の構成を はじめ、設備、調度品も含めて当初の姿をよくと どめている。畳割は、佐賀間(6尺2寸)ではなく京

間(6尺3寸)で計画されており、佐賀とは異なる

伝統的建築様式の影響を受けた近代和風住宅





35森永家住宅 【佐賀市柳町 4-7】

佐賀駅より徒歩15分 催事時のみ内部開放

森永家は江戸期以来、柳町に居を構え、文 化13年(1816年)生まれの初代森永十助が煙 草製造販売を営んでいた。長崎街道に面した 佐賀市・柳町界隈には煙草製造所が数軒あ り、その代表とされるのが、「森永煙草製造所」 であった。森永家は、寛政年間から藩より名を 受け、たばこの製造を始めたと伝えられる。江戸 期以来、煙草製造販売、続いて呉服店を営ん だ森永家の町屋建築遺構は、明治前期に遡 り、貴重な建造物である。



36旧久富家住宅

【佐賀市柳町4-16】 佐賀駅より徒歩15分 催事時のみ内部開放

旧久富家住宅は、大正10年、県下でも有数の 履物商を営む久富亀一によって、長崎街道沿い の柳町に「履物問屋 久富商店」として建てられ

た。土間奥の「履物問屋」と書かれた木製看板

が当時の面影をよく残している。 外観は大棟の妻壁を大きく見せ、大正期の大型 町屋として力感あふれる表構えを造っている。ま た、主屋の西側は土蔵造りで、その間は今も南 側の裏十間川沿いへ通り抜ける通路となってお り、柳町の風情を醸し出している。



37野中烏犀圓

【佐賀市材木1丁目3-17】

佐賀駅より徒歩20分 駐車場あり TEL 0952-23-2065(烏犀圓)

野中家は「野中鳥犀圓」の製造販売を家業と する老舗で、初代源兵衛氏が寛永3年(1626)に 創業した。現存する建築物は、寛政8年(1796) に生薬「烏犀圓」の製造販売を藩から許された 折建てられた。「冷善楼」と号される座敷では、 藩の役人が薬の検査を行ったと伝えられてい る。広い漆喰壁、正面中央の大破風や看板を吊 す屋形が江戸時代の商家の風情を今に伝えて いる。



38山口亮一旧宅 【佐賀市与賀町1368】 佐賀駅より南へ徒歩30分

設者である山口亮一画伯 (1880~1967)の養祖父にあた る梅堂が十代藩主鍋島直正公 の御典医としての地位を得た天 保期(1830~1843)に、白石の 須古にあった建物を解体し、現 在地に移築したと伝えられてい る。この旧宅は、山口画伯の創 作活動の場として、また、洋画研 究所を創立し後進の指導の場 として、当時の佐賀の美術界の 拠点であった。

主屋は、佐賀美術協会の創

清和高校東交差点より西へ入る 入場料無料 駐車場あり TEL 0952-60-2978 月曜休館

❸東与賀の干潟を望む ← シチメンソウ群生地

【佐賀市東与賀町大字田中、大字下古賀】 によって色が変化し、晩秋には干潟を 佐賀駅より南へ車で30分



シチメンソウは、有明海沿岸、北九州 市から大分県北部沿岸、朝鮮半島付近 にのみ生育する希少植物であり、季節 真っ赤に染めることから「海の紅葉」と も呼ばれている。この東与賀海岸には、 約1.6kmにわたりシチメンソウの群生地 が広がっており、また、南は干潟や有明 海から雲仙普賢岳、北には佐賀平野、 その先に天山や脊振の山々も望むこと ができ、360度の広大な景観を眺望でき る場所としても貴重である。

地元有志の「シチメンソウを育てる 会」を中心として、清掃活動や管理作業 など、シチメンソウの保護育成を行って いる。





●田中酒造合資会社 主屋・三号蔵

【佐賀市蓮池町大字小松338】 佐賀市街より大川方面へ車で15分 堂地交差点より南へ入る

内部見学は要連絡 TEL 0952-97-1111(田中酒造)



田中酒造は、有明海を介して 盛んな交流が行われ、江戸時 代には海産物や魚肥などの問 屋や船小屋などが軒を並べた 蓮池蒲田津に位置する。主屋は 江戸後期の建築である軸組が 残され、また三号蔵は明治前期 の建築(推定)で、二階の大壁 は軒裏まで白漆喰で塗り込めら れ、伝統的町屋建築の姿を示し ている。往時の蓮池蒲田津の繁 栄を偲ばせる歴史的景観の核 となる建築である。



7